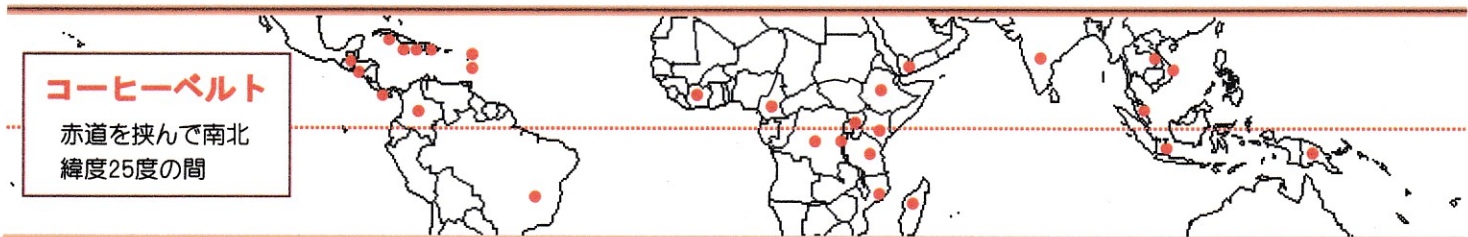


# コーヒー *Coffee*

## －生産国と消費国－

コーヒーは茶、カカオとともに三大飲料作物になっていますが、生産量、貿易量とも最も多いのがコーヒーです。エチオピア原産のコーヒー（アラビカ種）が対岸のアラビア半島のイエメンに伝わり、イスラム世界でコーヒー文化が開花します。トルコを経て17世紀にヨーロッパへ伝わったコーヒー文化は、イギリスをはじめ各国でコーヒーハウスが栄えてその文化が広まります。

その後、コーヒーの栽培地と消費地は世界へ広がりますが、コーヒーの基本的な栽培条件である熱帯地域が含まれる南北の緯度25度以内の「コーヒーベルト」に属する国・地域で生産され（そのほとんどはアラビカ種またはカネフォラ（ロブスタ）種である）、世界中の多くの国に輸出されます。本作品ではコーヒー生産国として、生産量の多い国、生産の歴史に特色のある国を、コーヒー消費国として、輸入量の多い国、1人当たりの消費量の多い国を取り上げて展示しています。



● 本作品で取り上げたコーヒー生産国

### 展示プラン

- |                           |               |
|---------------------------|---------------|
| タイトル&プラン                  | p. 1          |
| 1. コーヒーの原産地とイスラムコーヒー文化発祥地 | p. 2          |
| 2. アジアのコーヒー生産国            | p. 3 - p. 4   |
| 3. アフリカのコーヒー生産国           | p. 5 - p. 6   |
| 4. 中米のコーヒー生産国             | p. 7 - p. 9   |
| 5. カリブ海地域のコーヒー生産国         | p. 10 - p. 11 |
| 6. 南米のコーヒー生産国             | p. 12 - p. 13 |
| 7. コーヒーの輸入大国              | p. 14 - p. 15 |
| 8. 1人当たりのコーヒー消費量の多い国      | p. 16         |



コーヒー輸出国45か国と輸入国30か国が加盟する国際コーヒー機関（ICO）  
 (赤色)輸出国  
 (緑色)輸入国

\* 主要参考文献 マーク・ペンダーグラスト 樋口幸子訳『コーヒーの歴史』(河出書房新社:2002)  
 UCCコーヒー博物館『図説 コーヒー』(河出書房新社:2016)  
 且部幸博『珈琲の世界史』(講談社:2017)

\* 本作品に記載した統計資料は『データブックオブザワールド2022』(二宮書店:原典はFAO資料)による



# 1. コーヒーの原産地とイスラムコーヒー文化発祥地

【エチオピア】： コーヒー原産地 生産量48.3万t 第5位(2019)

エチオピア南西部の高原地帯がコーヒー（アラビカ種）の原産地で、現在でも野生種が自生している。栽培の歴史は古いがその年代ははっきりとは分かっていない。生産量は現在も世界第5位と多く、そのうち3～4割が国内消費で、残りが“モカ”コーヒーとして輸出され、同国最大の輸出品になっている。

コーヒー  
の木の枝 →



エチオピア《1番切手》



コーヒーチェリーとコーヒー農園



コーヒーの収穫

エチオピアでの来客をもてなす儀式として、1.5～2時間かけてコーヒーを抽出して振る舞うコーヒーセレモニー（カリオモン）が知られているが、いつ頃の習慣かは不明で、比較的新しい時代であるとも言われている。



丸く平たい鉄鍋 →



香りを楽しんだ後、木の臼と杵で豆を潰し、陶製のポットで煮だす。

コーヒーセレモニーは女性が執り行う。



最初は少量を地面にまいて大地の神に捧げた後、カップに注ぎ分けてお客に振る舞う。

【イエメン】： イスラムコーヒー文化発祥地 生産量2.1万t(2019)

9世紀以降にエチオピアから対岸のイエメンに伝わったコーヒーは、スーフィー（イスラム神秘主義者）の儀式での飲み物として広まり、1500年頃には一般市民の集まるコーヒーハウスがマッカ（メッカ）に誕生した。16～17世紀にかけてイエメンはコーヒーの主産地となり、積出港のモカはコーヒーの代名詞的存在となった。

アラビア半島でもイエメンの高原地帯は降水があり、コーヒーの栽培が可能で、現在も少量が栽培され、“モカ・マタリ”の名で輸出される。



モカコーヒーの木



コーヒーチェリー

イスラムのコーヒー文化はエジプトを経由して16世紀中頃にはトルコのイスタンブールに伝わった。



19世紀のトルコのコーヒーハウス



2. アジアの生産国①

【インド】：生産量32.0万t 第8位(2019)

1670年頃にイスラム教の巡礼者ババ・ブーダンがイエメンからコーヒーの種を持ち出し、インド半島南西部の山中で栽培に成功した。栽培の歴史としては中南米諸国やエチオピア以外のアフリカ諸国よりも古い。

現在では南西部カルナータカ州とケララ州の高地で生産され、カネフォラ(ロブスタ)種を中心にアラビカ種も栽培されている。



コーヒーの実



コーヒーの豆とポット、カップ

料額面コピー(80%)

हवाई पत्र  
Aerogramme



コーヒーの摘み取り



《航空書簡》



2. アジアの生産国②

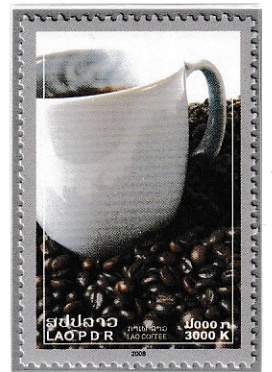
東南アジア

【ラオス】：生産量17.0万t(2019)

1915年にフランス人が移植。2000年頃から政府がフェアトレード認証に取り組んだ結果、小規模農園が多いにもかかわらず生産が急増したコーヒー新興国である。輸出品はインスタントコーヒーや缶コーヒーの原料に多く使用されている。



コーヒーチェリー



コーヒー豆とカップ

【ベトナム】：生産量168.4万t 第2位(2019)

17世紀後半にフランス人が移植。ドイモイ(刷新)政策による経済開放で1990年代から生産が急増し、世界第2位の生産、輸出を誇るコーヒー新興国である。カネフォラ(ロブスタ)種に限れば世界1位の生産をあげている。



コーヒー農園



コーヒーチェリー



コーヒー豆とカップ

【マレーシア】

：生産量3539t(2019)

現在、世界でほとんど栽培されていないリベリカ種のコーヒーを生産する国である。



コーヒーの実

【インドネシア】

：生産量76.1万t 第4位(2019)

17世紀末にオランダ人が移植。世界的な生産国で約3割は国内で消費される。スマトラ島産のマンデリンが知られる。

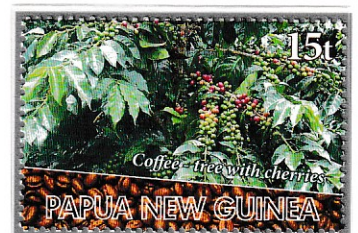


コーヒーの実

【パプアニューギニア】

：生産量5.6万t(2019)

地域的にはオセアニアであるが、ニューギニア島はインドネシアと陸続きのため便宜上東南アジアとして扱った。20世紀後半から本格的栽培が始まったコーヒー新興国。



コーヒーの実



3. アフリカのコーヒー生産国①

西部・中部アフリカ

【リベリア】

：生産量534t(2019)

リベリカ種の原産地であるが、現在はカネフォラ(ロブスタ)種をわずかに生産しているのみである。



コーヒー農園とシェードツリー  
《公用無目打》

【カメルーン】

：生産量2.8万t(2019)

フランス領時代の1920年代以降、本格的な栽培が始まった。



コーヒーの花とコーヒーチェリー  
《無目打》

【コンゴ民主共和国】

：生産量3.1万t(2019)

フコンゴ盆地周辺がカネフォラ(ロブスタ)種の原産地と考えられており、20世紀初めにインドネシアから再移入された同種が栽培の中心である。



コーヒーの実  
国名変更ザイール《逆加刷》

【コートジボワール】：生産量6.8万t(2019)

フランス領西アフリカ時代の19世紀に栽培が始まり、独立後の1970年代にはアフリカ最大の生産国となってカカオと並ぶ重要な輸出品であったが、現在は政情不安の影響もあり生産量は減少している。



コーヒーの花と実  
フランス領西アフリカ時代の切手



アーティストサイン入り《ダイプルーフ》



3. アフリカのコーヒー生産国②

東部アフリカ

【ウガンダ】：生産量25.4万t 第9位(2019)

カネフォラ(ロブスタ)種  
の原産地に近く、現在もカ  
ネフォラ種が自生してい  
る。1900年頃にアラビカ  
種も導入された。現在、ア  
フリカではエチオピアに  
次ぐ生産をあげている。



コーヒーの摘み取り

【ケニア】：生産量4.5万t(2019)

1892年に英領イエメン  
から移植され、現在では  
アラビカ種をケニア山  
周辺の火山灰性土壌に  
恵まれた高原地帯で栽  
培し、ヨーロッパ諸国に  
多く輸出している。



コーヒーの摘み取り



《官製葉書》

コーヒーの摘み取り：料額面

【タンザニア】

：生産量5.2万t(2019)

1877年にフランス領  
レユニオン島から移  
植。現在はキリマンジ  
ャロ山の南麓で栽培  
され、アラビカ種は  
「キリマンジャロ」の  
商標で輸出される。

コーヒーの花と実

【マダガスカル】

：生産量6.6万t(2019)

19世紀中頃にフランス  
領レユニオン島からア  
ラビカ種のブルボン種  
が持ち込まれ、現在も  
マダガスカル・ブルボ  
ンとして中央高原地帯  
で少量生産されてい  
る。生産の多くは東部  
海岸地帯で栽培され  
るカネフォラ(ロブス  
タ)種である。



マダガスカル, タマタブ(トゥアマシナ) 1959.10.5 差立て



4. 中米のコーヒー生産国①

【グアテマラ】：生産量22.5万t 第10位(2019)

1750年にスペイン修道士がコーヒーを移植したのが栽培の始まりで、19世紀後半には広く普及した。肥沃な火山灰性土壌に恵まれ、現在も世界的な生産をあげ、コーヒー生産者協会の品質管理のもと、重要な輸出品になっている。

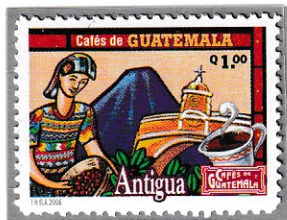


コーヒーの摘み取り

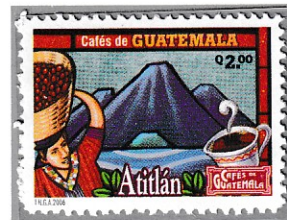
主要コーヒー生産地



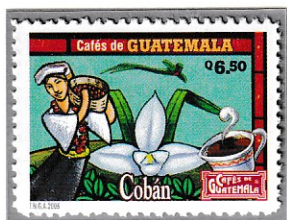
アカテナンゴ



アンティグア



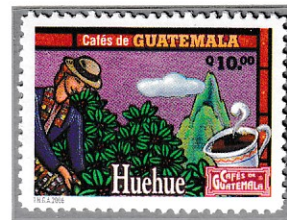
アティラン



コバン



フライハーネス



ウエウエ



コーヒーチェリーとコーヒー豆

《切手付封筒》



4. 中米のコーヒー生産国②

【エルサルバドル】：生産量4.0万t(2019)

1841年の独立後、1850年代から商業生産が始まったエルサルバドルでは、国土の大部分が高地になっており、肥沃な火山灰性土壌に恵まれた標高の高い地域でアラビカ種の1種ブルボン種が栽培されている。



コーヒーの摘み取り 《穿孔見本：SPECIMEN》

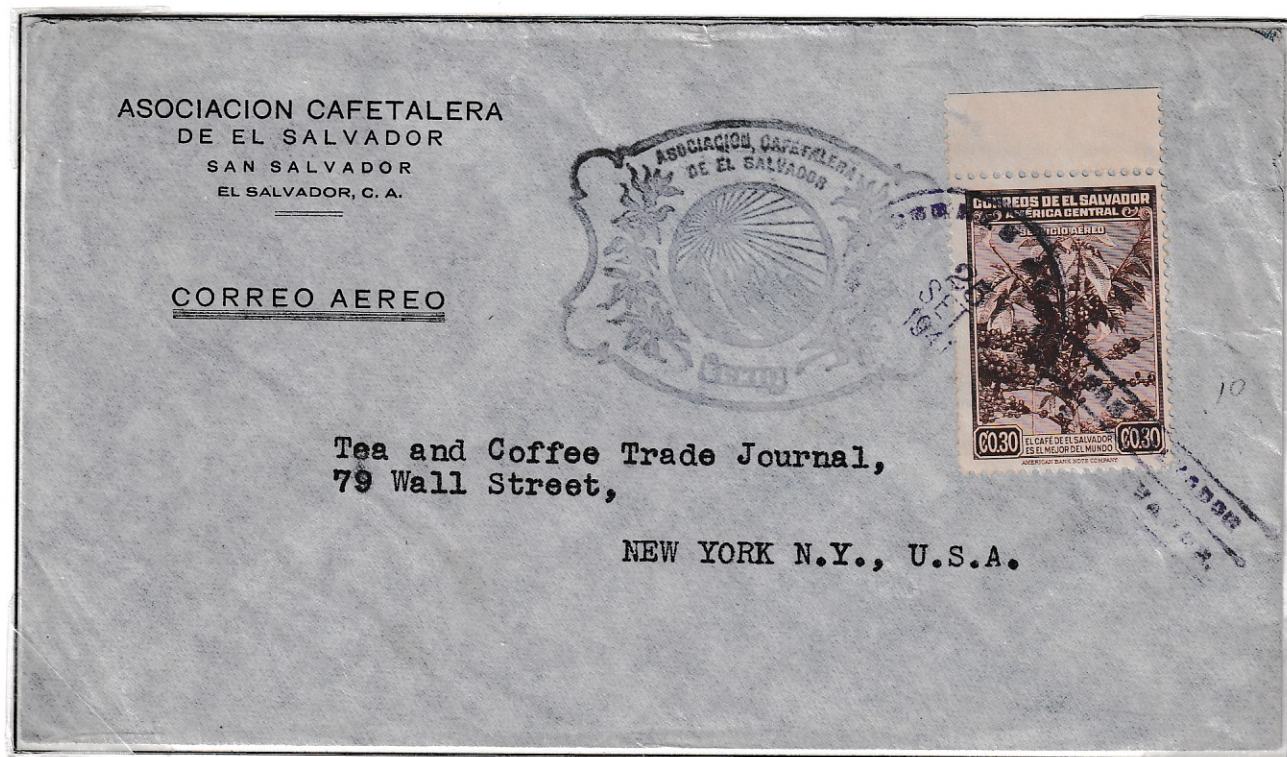
エルサルバドルでは農業生産の約30%がコーヒーで、メキシコチモラン(ユッカ)とともにコーヒーの花が「国花」になっている。



コーヒーの花



コーヒーの実



エルサルバドル, サンサルバドル 1941.9.25 — アメリカ, ニューヨーク 宛



4. 中米のコーヒー生産国③

【コスタリカ】：生産量8.4万t(2019)

中米諸地域がスペインから独立した1821年にコーヒーの栽培が始まり、森林が多く耕地としての適地が少ない条件の中、ブラジルへの対抗策として、小規模農園による高品質、高価格商品の少量生産が行われてきた。



普通切手に  
コーヒー袋の絵を《加刷》



《逆加刷ペア》



コーヒー農園《テートベッシュ》  
コーヒー栽培100年を記念して1921年発行



収穫したコーヒーチェリーの牛による運搬(1945)《見本：MUESTRA》

コーヒーの摘み取り



コスタリカ, サンホセ 1952 — ドイツ, ヴェレルル 宛



5. カリブ海地域のコーヒー生産国①

【ドミニカ共和国】：生産量1.5万t(2019)

1735年に隣接するハイチからコーヒーが移入され、19世紀後半から本格的な栽培が始まった。小規模農園での栽培で、多くがヨーロッパへ輸出される。



実を付けたコーヒーの木の枝(左)  
《無目打ペア》

【キューバ】：生産量5364t(2019)

18世紀中頃スペイン人がコーヒーを移植。19世紀中頃には世界3位の生産をあげたが、現在は減少。

《初日記念印》

コーヒーの収穫



【ジャマイカ】：生産量5587t(2019)

1728年にマルティニーク島から移植された。ブルーマウンテン山脈中腹に限られた地域で栽培される「ブルーマウンテン」は最高級品として日本へ多く輸出され、麻袋ではなく樽で輸送される。

ブルーマウンテン山脈と実の付いたコーヒーの木の枝



中腹にコーヒー農園があるブルーマウンテン山脈



ジャマイカ,キングストン 1958.4.14 — アメリカ,ウースター 宛



5. カリブ海地域のコーヒー生産国②

【ハイチ】：生産量2.1万t(2019)

フランスに送られていたコーヒーの苗木が1715年にハイチに持ち込まれ、1750年頃には世界のコーヒーの約半分を生産する最大の産地になるが、1804年の独立後は財政難で生産が激減した。現在では生産量は少ないものの、カリブ海地域では最大の生産をあげている。



コーヒーの木の枝



コーヒーチェリー



船内でのド・クリューと  
コーヒーの苗木

【グアドループ(フランス海外県)】  
：生産量 ごく少量(2019)

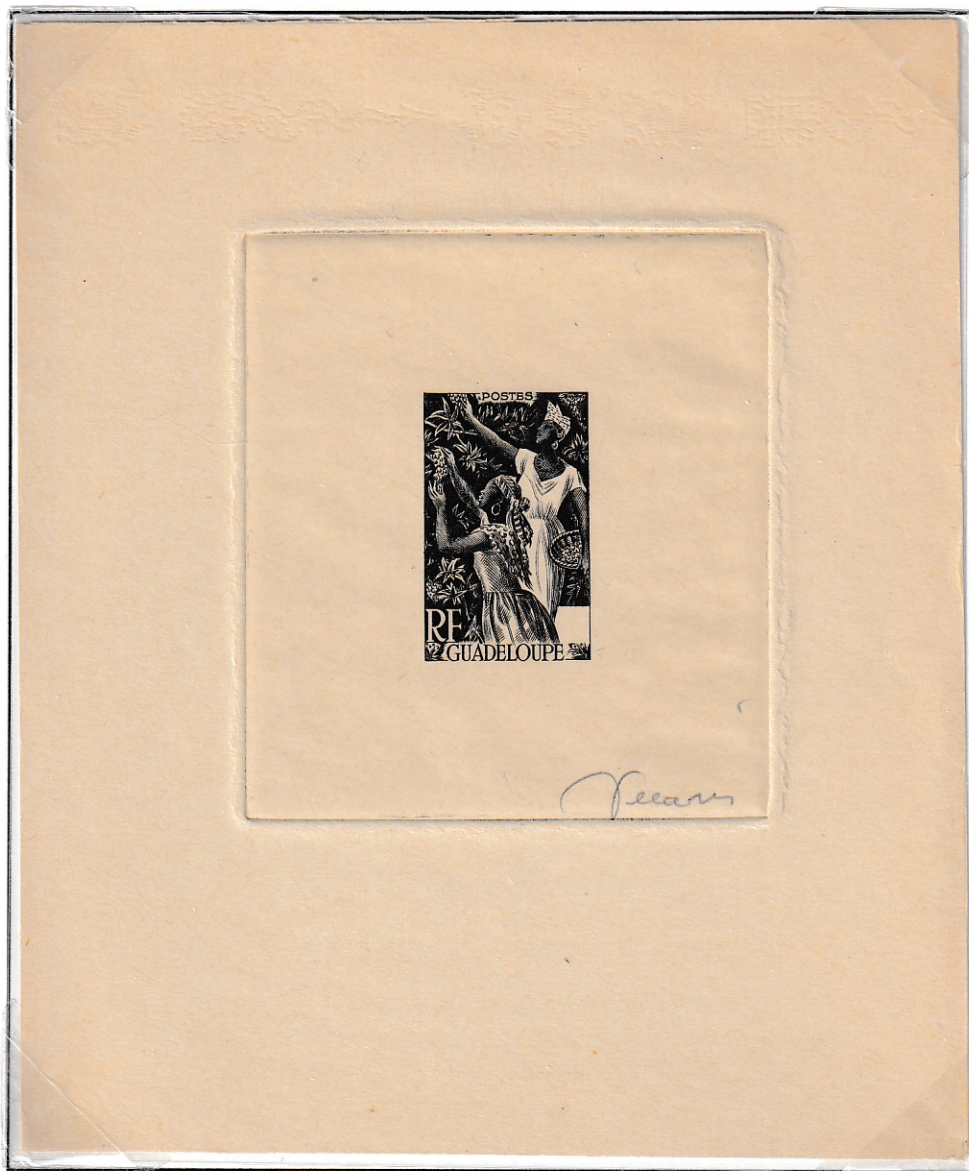
マルティニーク島からその北にあるグアドループ島へコーヒーの木が伝わり、ド・クリューはグアドループの長官を努めた。

1725年以降、カリブ海のフランス植民地であったハイチ、マルティニーク、グアドループでのコーヒー生産は飛躍的に増加した。

ハイチ以外の両島での生産は、現在ではごく少量である。



コーヒーの摘み取り



アーティストサイン入り《ダイプルーフ》



6. 南米のコーヒー生産国①

【コロンビア】：生産量88.5万t 第3位(2019)

18世紀後半に中米から移入されてコーヒーの栽培が始まり、現在はブラジル、ベトナムに次ぎ生産、輸出とも第3位である。アンデス周辺に分布する農園の多くが小規模農家でアラビカ種を栽培し、3つの主要生産地域を結ぶ地帯は「コーヒートライアングル」と呼ばれ、その急斜面の伝統的栽培地景観は世界文化遺産に指定されている。



コーヒーの収穫《穿孔見本》



コーヒーの花と  
コーヒーチェリー



《穿孔プルーフ》

コーヒー農園



コロンビア、メデジン 1937.3.2 — オーストリア、ウィーン 宛



6. 南米のコーヒー生産国②

【ブラジル】：生産量300.9万t 第1位(2019) 消費量 第2位(2020)

すでにコーヒーが移入されていたフランス領南米ギアナから1727年にコーヒーが伝わった後、1760年にインドから移入されて本格的な栽培が始まり、1850年代には世界最大のコーヒー生産国になった。アラビカ種を中心に多様なコーヒーが栽培され、現在も生産量、輸出量ともに第1位のコーヒー大国であるが、人口も多いため消費量も第2位と多い。現在の主産地はミナスジェライス州の高原地帯である。



コーヒーの葉を持つ女神



コーヒーチェリーとコーヒー豆



コーヒーチェリー

ブラジルのコーヒー生産増大にともなって発展したのが、ポルトガル語で“農園”を意味する「ファゼンダ」と呼ばれるコーヒーの大農園である。農園主のもとで初期は奴隷の労働力が使用されたが、奴隷制廃止後はコロノと呼ばれる移民労働者が主に仕事に従事した。

781名を乗せて神戸港を出航した移民船「笠戸丸」がコーヒーの積出港で有名なブラジルのサントスに入港したのは1908年(明治41年)のことである。この最初の移民のほとんどはコーヒー農園の労働者となり、ブラジルへの日本人移民の歴史が始まった。



コーヒー農園「ファゼンダ」



コーヒー豆と  
ビザスタンプ

コーヒーの実と  
移民船「笠戸丸」

生産第1位のコーヒー大国ブラジルは人口も多く、消費量もアメリカに次ぐ第2位で消費大国でもある。



コーヒーチェリー、豆とカップ



7. コーヒーの輸入大国①

【アメリカ】： 輸入量142.8万t 第1位 消費量 第1位(2020)

1773年のボストン茶会事件を機にコーヒー嗜好へ転換し、19世紀にはカリブ海地域や中南米でコーヒーの栽培地が広がったため、アメリカの消費量は飛躍的に増加した。現在も世界のコーヒー消費大国である。



エスプレッソ 現行の《無額面永久保証切手》シール式で裏面にも印刷されている

20世紀の後半に提唱されたスペシャルティコーヒーなど、現在では多様な飲み方のコーヒー文化が定着している。



シルバーコーヒーポット 《コイル切手》

19世紀の後半から20世紀初頭には多くのコーヒー会社がしのぎを削った。



コーヒー会社差立てカバー イリノイ州シカゴ 1900.9.17 — オハイオ州ワルソー 宛



7. コーヒーの輸入大国②

輸入も輸出も多い国

【ドイツ】： 輸入量112.0万t 第2位 輸出量34.0万t 第5位 (2020)

18世紀後半にヨーロッパにおけるコーヒーの消費大国になったドイツは、ブラジルがコーヒー生産の主力となった19世紀末にはハンブルクがヨーロッパのコーヒー貿易の中心になった。現在は世界第2位の輸入国で消費量も多いが、消費分の残りはヨーロッパ各国に再輸出されている。



自由港の地位を得たハンブルクは、20世紀初頭には世界のコーヒー貿易輸出量の約4分の1が流入した。現在でもヨーロッパ最大のコーヒー集散地である。

ハンブルクにあるコーヒー会社の《メータースタンプ》

【ベルギー】： 輸入量31.4万t 第6位 輸出量24.1万t 第8位 (2020)

生産国以外で輸出上位10位内はドイツとベルギーだけで、ベルギーでも消費分の残りが再輸出されている。



ベルギー領コンゴから輸入されるコーヒーを扱う会社の広告。ベルギー領コンゴは1960年に独立するが、それ以前の1950年代に発行された官製葉書。

Café (フランス語)  
Koffie (オランダ語)  
ベルギーは2言語国家である。

コーヒー豆でデザインした人間のシルエット

《広告入り官製葉書》



8. 1人当たりのコーヒー消費量の多い国

【北欧諸国】

第一次大戦中に戦渦を避けて、アメリカの業者が中米産の高級品を安価で北欧へ輸出した歴史があり、低温で日照時間が短い気候の影響もあって、北欧諸国の1人当たりのコーヒー消費量は 8kg/年 以上と非常に多い。

〈フィンランド〉

：1人当たり消費量 第2位

フィンランドでは労働時間に応じてコーヒー休憩(15~20分)が法律で義務付けられている。



1876年設立のコーヒー会社パウリグ (Paulig) の《メータースタンプ》

〈スウェーデン〉

：1人当たり消費量 第3位

スウェーデンでは午前と午後甘いお菓子とともにコーヒーを飲むフィーカというコーヒータイムが定着している。

各種コーヒーと  
コーヒーカップ



1人当たりのコーヒー消費量  
kg/年 (2020)

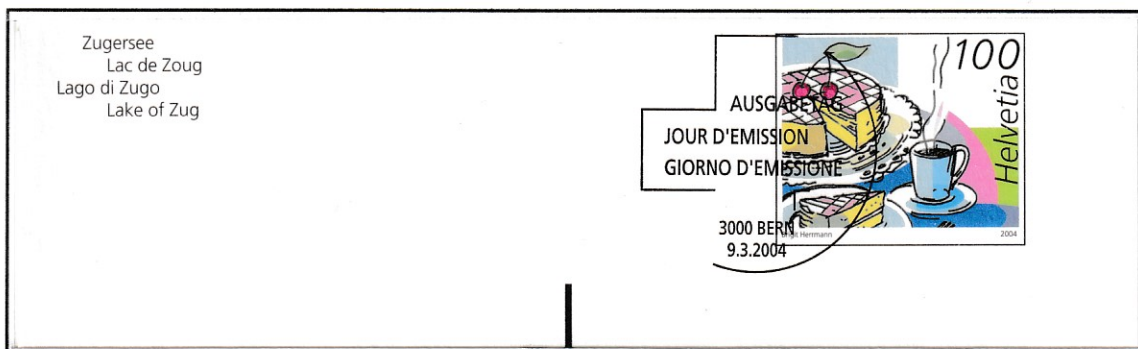
- 1位 ルクセンブルク※
- 2位 フィンランド(北欧)
- 3位 スウェーデン(北欧)
- 4位 ノルウェー(北欧)
- 5位 スイス

以上8kg以上

※ルクセンブルクは低物価のため隣国から流入する購買者が多い。

【スイス】

：1人当たり消費量 第5位



《官製絵葉書》

コーヒーカップ  
とケーキ

スイスに本社がある世界最大の食品・飲料会社ネスレはベトナムにコーヒー工場を持ち、同国コーヒーの20%以上を輸入している。

絵面コピー (部分:80%)

